

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0790100184 | | |
| 法人名 | メディカル・ケア・サービス東北株式会社 | | |
| 事業所名 | 愛の家グループホーム福島飯坂 1階 | | |
| 所在地 | 〒960-0231 福島県福島市飯坂町平野字中ノ内7-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年12月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年4月4日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8043 福島県福島市中町4-20 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年2月7日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>入居者様同士、スタッフと入居者様でのコミュニケーションを大事にしている。 普段の何気ない会話や個別ケアで1対1の会話時間をより多く作り、真のニーズを聞き出して入居者様のケアに繋げるようにしている。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>1. マニュアルを整備し、研修を充実したり、資格取得支援をするなど職員資質向上に積極的に取り組んでいる。 2. センター方式、気づきボックスを活用したり、家族アンケートを行い利用者主体の支援をしている。 3. 散歩、買い物、名所地への出かけるなど積極的に外出し気分転換に努めている。 4. 事業所が積極的に地域と交流しており、地域の自治会に加入し地域への広報配布、お祭り、清掃などに参加している。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ユニット理念に関しては、ケアスタッフ全員がこんなホームに住みたいという意見を集約し作成しています。全員で共有し1歩ずつ理想の姿に近づいています。また、平成24年1月にユニット理念を作り変える予定。 | 理念を掲示し、唱和したり、会議などで全職員で共有し実践につなげている。毎年理念の見直しをしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 地域との交流を深める為に町内の堀払い等に参加もしています。また、散歩に行った時に地域の方と利用者様が仲良く談話する様子も多くみられていた。震災時には近隣の方より、飲料水や食料、暖房など色々な支援を頂いていると同時に、入居者様から感謝の意を色紙に表し贈呈している。 | 町内会に参加し、地域清掃、地域行事、ポトルキャップ集め、地域への広報配布などを行っており震災時地域から飲料水、食料、暖房の支援を受けるなど日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症、グループホーム等について多くの地域の方に知って頂ける様、町内会長の協力の下、地域向けの広報誌を年4回季刊誌という形で、回覧板で見いただいでいる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催している。地域包括の方のご協力のもと、入居者様が兼ねてから希望されていた囲基ボランティアの募集ポスターを掲示して頂けるきっかけの会議となり、現在は定期的に囲基の会への参加をさせて頂いている。 | 定期的に行なっている運営状況、行事、事故発生状況、避難訓練、評価結果などの報告をし活発な意見交換をしているが外部委員が3名だけである。 | 消防関係者、ボランティア代表などの参加も検討してほしい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 長寿福祉課との連絡を密にとり、介護保険法の遵守を徹底したサービスを行える様努めている。介護保険申請時の委任に関しても、福島市との協議の上、正式な書面を作成し委任ができる状況を作成した。 | 市の担当者、関係部局への連絡をしたり、協議をするなど日頃から協力関係を築いており、震災後もスムーズな関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の研修を行い、全スタッフが正しく理解し、日常のケアで生かしている。また、夜間(防犯上の観点での施錠)を除き玄関の施錠は行っていない。 | マニュアルを整備し、研修、会議などで全職員が身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアを実践している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修委員会が実施している研修に、全職員が参加している。また、研修内容も具体的なものにし、虐待を見過ごさない体制を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 福島市地域福祉課の方と話し合い、必要な方に対して権利擁護制度などを活用できるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約締結の際は、重要事項説明書を用いてわかりやすく伝え、理解・納得を頂いている。不安なことや質問などは、随時受け付ける体制を整えている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を実施している。また、ご家族様アンケートを年に1回、実施し、ホームへの来所が難しいご家族様でも意見・要望を頂けるようにしている。 | 気づきボックス、面会時、家族アンケート、運営推進会議の委員に家族代表がなるなど、日頃から利用者、家族の意見、要望を把握し運営に反映させるよう支援している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1回ユニット会議を行い、職員の意見・提案を聞く機会を作り、運営に反映させるようにしている。また、ホーム長・リーダーとのヒヤリングを2ヶ月に1回、行い意見を聞く機会も作っている。 | 会議や気づきボックスで職員の意見要望を把握したり、ユニットリーダー、管理者が定期的に個別面談を行い職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 「マイレボリューションプログラム(人事考課制度)」の実施を行い、各職員の実力に応じた評価を行っている。また、その評価がスタッフの向上心に繋がるように、ホーム長とのヒヤリングも実施している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修に、スタッフが積極的に参加できる体制を作っている。また、スタッフ各自が資格取得に向かえるよう、シフト調整なども行っている。ホームヘルパー2級取得に関しての助成金制度もあります。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 毎週1回、『地域交流活動』と題し管理者が地域の同業者や地域包括支援センターとの連携を図っている。職員に関しては、福島市同一法人でのネットワークがあり、交流を深めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 日頃よりご本人様やご家族様の思いを傾聴し、サービス導入前にはアセスメントを取り、スタッフ同士で情報共有し、安全・安心を確保する為の関係作りを行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居相談時や実調時などに、ご家族様の困っていること等を傾聴し、ご本人様にとってのグループホーム生活の方向性などを話し合い関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族様とご本人が必要としているサービスを見極め、『グループホーム』という枠に囚われず、地域資源の活用や居宅サービスなどの説明を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者様の家族の一員として、何気ない会話などを大切にしながら、日々の生活を共にして、支え合いながら関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 定期的な通院介助や面会時等には、入居者様の生活状況をお伝えするようにしている。ケアプランの提示や同意時に来所して頂いた時には、現状の課題や支援方法について共に考えている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 定期的な個別ケアを実施するようにし、ご本人の馴染みの場所・ゆかりの地へ外出するなどしている。また、ご家族様のご協力の下、実家に帰って過ごした方もいた。 | 以前の職場を訪問したり、知人との交流、散歩、買い物、外食、家族との外出、外泊、墓参りなどこれまでの関係が途切れないよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者様同士が伴に支えあい生活出来るようにと、一人一人の力量や性格を把握し、スタッフが間に入る等しながら支え合えるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後についても、ご家族様に宛てた手紙の送付や、電話連絡を行い、今まで築いてきた関係性を保つようしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 6ヶ月ごとに認知症の方専用の評価方式を用いて、ご本人様の想いやホーム生活での要望や願いなどを聴き出し把握するよう努めている。 | 気づきボックスやセンター方式で思い、意向を把握し、全職員で共有するとともに定期的に見直し本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴や今まで暮らしてこられた時の生活背景などを聴き出し、スタッフ全員での把握に努めている。また、必要があれば、ご家族様より情報を頂く様にしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | グループホーム生活前の暮らし方などをヒントにしながら、心身状態の確認をしつつ声掛けを行っている。また、残存能力を生かせるケアに努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | スタッフ全員で実施した介護サービスを検証し、それらを基にユニット会議でケアの課題や今後の方針を検討している。また、ケアプラン提示時にご家族様と本人との話し合いを行い、ケアプランに反映させている。 | 定期的に本人、家族、必要な関係者と話し合い、状況変化時にも迅速に本人本位の検討をしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活の様子を、ケアプランに基づきながら個別記録に記入している。また、本人の言葉やスタッフの声掛けの仕方なども具体的に記入するようにし、ケアプラン見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人やご家族様の、その時々ニーズに合わせて対応できるように、地域資源の活用等、既存のサービスに捉われない考え方で、随時話し合い対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 個別ケアや行事で出掛ける際には、地域資源を活用するようにしている。また、囲碁を行いたいというニーズを持っている方については、地域資源を活用し囲碁愛好会への参加をして頂いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人及びご家族様の意向に沿って、病院受診を行っている。看護師よりの適切な情報提供を行うことにより、病院との連携を図ることが出来ている。 | 大半の利用者が協力医を希望しており、家族の付き添いで受診している。緊急時は事業所が支援している。また、協力医による訪問診療と看護師の24時間オンコール体制がとられている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | スタッフは、日々の細かな状態変化などに留意して観察を行っている。看護師と、24時間連絡が取れる体制になっている為、緊急時も含め随時電話で報告を行い、指示のもと対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院先の医師・看護師・相談員との連絡を密にとるようにし、状態把握や相談に努めている。また、定期的にお見舞いに行き、早期退院に向け支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居する際、ホームで対応出来る看取りについての説明を行っている。また、3ヶ月に1度のケアプラン更新時には、ご本人とご家族様の意向確認をとるようにしている。 | 利用開始後に重度化した場合における医療体制指針により家族などに説明し、事業所の方針を理解して頂いている。また、ケアプラン更新時毎に家族などの意向を確認している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 新人スタッフも含め、普通救命救急講習に参加し、緊急時に備えた訓練をしている。また、誤嚥時の対応など、急変に備えた研修も随時行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署立会いの訓練を年2回、自主訓練を年2回実施している。その他にも、初期消火についてなど、毎月のユニット会議で研修を行っている。 | 火災、地震を想定した訓練を消防署の協力のもと実施している。有事の際は避難誘導や避難所の確保など、地域住民の協力体制が取られている。また、今般の震災を踏まえ毎月研修会や非常用備蓄品の確認など行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご入居者様一人一人が人生の先輩である事を常に意識し、言葉掛けや行動に注意して対応している。また、ホーム長が講師となり、プライバシー研修を行っている。 | 人生の先輩として利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けと、誇りやプライバシーに配慮した対応について、研修会などを通して周知徹底し支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で、ご本人のその時の想いを尊重出来る工夫をしている。10時や15時のお茶の提供時には、飲みたい飲み物を自由に選んで頂ける様にしている等、自己決定出来る限り行っていただいている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 時間やスタッフ側の都合に合わせるのではなく、就寝時間の自由や入浴時間等、ご入居者様が主体となるよう行動している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご家族様のご協力のもと、なじみの洋服を持って来ていただいたり、なじみの美容院に行くなど、その人尊重した対応が出来ている。また定期的な出張理髪サービスの利用を行い、散髪や髪染めに対応している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | 週3回の買い物にご一緒して頂き食材を選ぶ楽しみを感じて頂いたり、ご利用者様の状況や体調に併せた調理を行って頂いている。調理方法など、スタッフが教えてもらう場面もある。 | 週3回、食材の購入、調理、盛りつけ、片づけなどを職員と一緒にしている。食事と共に語り話しかけなどをしながら、楽しい食事となるよう支援している。また、食器は瀬戸物を使用するなどして、より家庭生活に近い支援もしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士が作成している調理指示書に基づき調理・管理し、食事・水分量についても記録に残している。また、糖尿病の方のメニューなども別があり、一人一人に合わせた食事を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、必要な方に関しては介助にて洗浄を行っている。また、嚥下に不安がある方については、嚥下検査を行い、医師より指示をもらうようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 1人1人の排泄パターンの把握に努め、パット類の検討やトイレ誘導を行っている。また、羞恥心に気をつけた声掛けを心がけ、自立した排泄が出来る様支援を行っている。 | 排泄チェック表、表情、仕草から、排泄パターンや排泄時間を把握し、自立に向けた支援を行っている。その結果失禁が減るなどの改善が見られる方も出ている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ご入居者様一人一人の状況を常に確認するようにし、牛乳等の乳製品や体操を行うことで、出来る限り薬に頼らないよう工夫している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴する日にちや時間を定めず、一人一人の状況や意向に沿って入浴を行っている。また、入浴拒否がある利用者様については、声掛け方法等をスタッフで情報共有し、今では拒否無く入浴できるようになっている。 | 体調やその日の気分に応じた、本人本意の入浴支援を行っており、季節に応じたゆず湯、菖蒲湯などにより、楽しい入浴となるよう配慮している。また、出来る限り同姓介助に心掛けている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間を定めず、ご利用者様の体調や気分に合わせて声掛けや誘導を行い、安心して就寝して頂ける様にしている。また、不眠の訴えがある際には、想いを傾聴する等の対応を行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬管理マニュアルに基づいた管理を徹底して行っている。また、病院受診後など薬の変更があった際には、必ず申し送りを行い、スタッフ全員が服薬方法を把握している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活暦をもとに、馴染みの趣味などを行って頂けるようにしている。また、生きがいを感じて頂ける様に、一人一人に合わせた役割の提供を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご本人の自由な意思で外出できる様、買い物や散歩を行っている。また、一人一人に合わせた外出支援として、個別ケアを定期的に行っている。 | 日常的には散歩や食材の購入、個別ケアによる買物、食事、名勝地などへ、家族の協力も得ながら外出支援をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 「普通の生活を当たり前」というケアを行うよう努めている為、スタッフはお金を所持したい気持ちを理解している。自分でお金を持っていたいという希望がある際は、ご家族様の了承を得て所持出来るよう対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話を掛ける際は、スタッフも最初と最後に家族様に言葉掛けをするようにした上で、自由に電話をできるようにしている。また、手紙のやり取りも自由に行える様に支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間に関して、ご利用者様にとって不快や混乱を招かないように、更に場所が分かるよう掲示するなどの工夫をとっている。また、季節感を感じて頂ける様にご利用者様と共同で、ちぎり絵などの作品を飾るようにしている。 | 居間の天井は高く開放感があり、共用空間には行事の写真や利用者の手作り作品、季節に応じた飾り付けを行って、居心地よく過ごせるよう配慮されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間の中に、畳みコーナー・ソファを設置し自由にのんびりと過ごして頂ける様に工夫している。また全室個室対応の為、一人になれる空間の確保も行われている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている | ご入居者様の以前の生活の延長とさせて頂けるように、馴染みの家具を置いたりするなどして混乱が起きないように対応している。 | 整理タンスやベッド、テレビ、畳、仏壇などが持ち込まれ、思い思いの部屋づくりを行って、居心地良く過ごして頂けるよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人一人の出来る力を見極めながら、できる事は自立で行って頂くようにしている。下膳や洗濯物たたみ・片付けなど、ご本人の力で安全に行って頂けるようにしている。 | | |